

第10回 北九州脳卒中地域連携パス協議会 議事録

日時：2012年6月14日（木） 19:00～19:15

場所：ウェル戸畑中ホール

出席者（敬称略）（順不同）

委員長：石束 隆男

副委員長、事務局代表：蜂須賀 研二

副委員長：浜村 明德

担当理事：井手 誠一郎

事務局幹事：小田 太士、事務局担当：杉保 聖子

オブザーバー：重吉 桂司

委員

小倉記念病院	神経内科	古田 興之介
北九州総合病院	脳神経外科	前田 仁史
九州労災病院	看護師	森本 タケ子
九州労災病院	脳神経内科	荒川 修治
北九州市立医療センター	脳神経外科	勝田 俊郎
三萩野病院	理学療法士	宮原 夏子
北九州市立八幡病院	脳神経外科	越智 章
九州厚生年金病院	理学療法士	林 秀俊
正和中央病院	リハビリテーション科	浦上 泰成
北九州市立門司病院	ソーシャルワーカー	前田 秀隆
小倉リハビリテーション病院	リハビリテーション科	大野 重雄
安倍山公園病院	内科	田中 繁
東和病院	作業療法士	河野 修
大原病院	介護支援専門員	稲富 武史
芳野病院	理学療法士	小西 智晴
正和なみき病院	リハビリテーション科	浦上 泰成
北九州八幡東病院	理学療法士	山下 太
東筑病院	リハビリテーション科	前川 信行
神原クリニック	作業療法士	泊 政次
八幡慈恵病院	院長	真角 正
大平メディカルケア病院	理学療法士	大橋 繫
新生会病院	ソーシャルワーカー	岩丸 悦子

相生リハビリテーションクリニック	リハ科	牧野 健一郎
慈恵曽根病院	看護師	小川 静江
新中間病院	ソーシャルワーカー	蛙田 沙矢香
遠賀中間医師会おかがき病院	ソーシャルワーカー	野邊 薫
浅木病院	作業療法士	峯浦 達雄
鞍手町立病院	理学療法士	今永 真之
町立芦屋中央病院	理学療法士	福田 明仁
あやめの里	理学療法士	志田 啓太郎

欠席者

健和会大手町病院	脳神経外科	末廣 栄一
健和会大手町病院	看護師	鴨崎 治美
新小倉病院	脳神経外科	吉開 俊一
新小文字病院	脳神経外科	金子 陽一
牧山中央病院	内科	本村 良次
戸畑共立病院	脳神経外科	辻 武寿
済生会八幡総合病院	脳神経外科	岡本 右滋
新日鐵八幡記念病院	脳血管内科	藤本 茂
産業医科大学病院	ソーシャルワーカー	野田 雅美
福岡新水巻病院	脳神経外科	金 茂成
北九州中央病院	脳神経外科	愛甲 康隆
松井病院	内科	松井 豊
戸畑けんわ病院	リハビリテーション科	二見 哲夫
戸畑リハビリテーション病院	作業療法士	東谷 成晃
香月中央病院	理学療法士	宮崎 達也
宗像水光会総合病院	ソーシャルワーカー	下濱 絵里香
宮田病院	ソーシャルワーカー	赤星 宣子
伸寿苑	ソーシャルワーカー	若月 伸一

九州労災病院門司メディカルセンターについては委員未選定

委員以外が出席した登録医療機関

健和会大手町病院、北九州中央病院、新小倉病院、新小文字病院、牧山中央病院、戸畑共立病院、済生会八幡総合病院、新日鐵八幡記念病院、産業医科大学病院、福岡新水巻病院、松井病院、戸畑けんわ病院、戸畑リハビリテーション病院、香月中央病院、宗像水光会総合病院

一般出席者 急性期病院

医師 26名 医療従事者 52名

回復期病院・その他 医師 22名 医療従事者 143名
行政関係 1名

司会 北九州脳卒中連携パス協議会 委員長 石東 隆男先生

議事内容

連携パス事務局幹事 小田

1. 連携パス統計解析

これまで事務局に寄せられた急性期病院 917 件の連携パスについて集計結果を示した。累計利用数ならびに年度別の利用数を示し、2009 年度、2010 年度ともに年間 300 件台の利用を認めた。2011 年度については、2012 年 4 月末現在で 237 件であるが、利用中のパス数を含めると例年同様であると予想される。パスの利用機関は、北九州市内のみならず二次医療圏の拡大し、2012 年 4 月現在、急性期病院 18、連携入院機関 28、連携外来機関は 2 施設であった。連携外来機関の参加利用数は少ないのが現状である。病型別の発症者数は脳梗塞が最も多く全体の約 62%を占めた。発症年齢は、70 歳代が全体の 1/3 で平均発症年齢は 73.6±12.5 歳であった。年度別の急性期病院、連携入院機関の退院時 Barthel Index、Barthel Index 効率を示し、それぞれ年度別の Barthel Index、Barthel Index 効率に統計学的な有意差は認めなかった。上肢ならびに下肢麻痺重症度別の Barthel Index を急性期病院と連携入院機関別に教示した。年度別の入院日数は、急性期病院、連携入院機関ともに 2010 年度の入院日数は延長する傾向にあったが、統計学的な有意差は認めなかった。連携入院機関における自宅復帰率は、2009 年度と比較し、2010 年度は低下していた。

2. 連携パス Ver. 2.2 について

回復期の連携パス Ver. 2.1 について、生活機能評価の項目は、必須入力項目として Barthel Index、任意項目として FIM を使用してきた。これまで事務局に寄せられた回復期の連携パスは、ほぼすべてのパスに FIM が入力されていたことから、各連携入院機関の確認後、生活機能評価の必須評価項目として FIM を採用し、Barthel Index については任意項目とすることとした。また、FIM は入院時ならびに退院時に評価する。

生活機能評価のサブ項目にチェック漏れが散見されることを勘案し、エクセルファイルでは未チェック式を導入する。急性期、維持期パスについては、これまで同様生活機能評価は Barthel Index を必須評価項目とし、FIM を任意項目とする。

連携パス Ver. 2.2 については 2012 年 7 月から開始予定である。

3. その他

現在、連携外来医療機関（かかりつけ医）の協議会への参加あるいは利用している機関は少ない。診療報酬の算定するための申請手続きの煩わしさも参加をためらう一因と考えられる。今後、事務局が中心となって計画管理病院、連携入院医療機関、連携外来医療機関の一括申請を検討し

ている。しかし、対象とする連携外来医療機関、九州厚生局への一括申請期間等いまだ不明点が存在しており、今後、具体的な申請法については医師会、行政と連携を図り進めていく予定である。

4. 事務局連絡事項

① 第10回北九州脳卒中地域連携パス協議会の開催予定

2012年11月15日（木） 19:00～ ウェル戸畑

②これまで同様、パス使用時は、コピーを必ず北九州医師会へFAXまたは郵送して下さい。

〒802-0077 北九州市小倉北区馬借 1-7-1

北九州医師会内 北九州地域連携運営委員会

FAX 093-513-3816

③今後のパス運用に活かすため、連携パスへのご意見やご要望をお聞きしています。また、今後の協議会で議題についてのご要望は併せて下記まで御連絡頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1

北九州脳卒中地域連携パス協議会事務局（産業医科大学リハ医学講座）

担当職員：杉保聖子、事務局幹事：小田太士

Fax: 093-691-3529 E-mail: reha@mbox.med.uoeh-u.ac.jp

文責 北九州脳卒中地域医療連携パス協議会 幹事

小田 太士